

ほんはともだち～読み聞かせをしよう～

[おおきなかぶ（光村図書）]

第1学年 1名 指導者 那須芳子

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、表現力、主体性・積極性

単元について

本単元は、学習指導要領C読むこと「イ場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えること」「エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を受けて設定したものである。

本教材は、おじいさんが種を撒き、大きく育ててなかなか抜けないかぶを、人や動物が次々に加わって力を合わせ、最後によく抜けるという話である。栽培の喜び、協力の喜び、収穫の喜びにあふれている。繰り返しのあるリズムカルな文章のお話であり、児童にとって親しみ易いものである。

児童の実態

本学級の児童は学年一人であるが、根気よく毎日2文字ずつひらがなの書き取りをした。「はなのみち」の学習では、文を読んだり挿絵を見たりして登場人物の様子を読み取り、会話を想像して書き込むことができた。物語の学習が好きと話している。

また、「読書をするのが楽しい。」と話し、図書室の本の貸し出しの日を楽しみにして本を借りて読んでいる。読書朝会での読み聞かせも楽しんで聞いている。保護者の協力で親子読書もしており、読書名人をめざして読んだ本の記録をしている。

自分の意見をはっきり話すことができるが、慣れていない相手や改まった場では、声が小さく発言できないときがある。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「読書朝会で読み聞かせしよう！」と設定し、自分が薦める本を読み聞かせするという目的意識を持たせる。そのために、「おおきなかぶ」をもとに繰り返しのあるお話を何度も声に出して読むことで、言葉の響きやリズムの心地よさや面白さを感じ、よりよい読み聞かせができるように工夫させる。学校図書館司書と連携し、昔話や動物が次々に登場する・登場人物が同じ行動を繰り返すお話の本を学級文庫に用意しておく、自分のお気に入りの絵本を探ることができるようにする。

第一次では、リズムカルな言葉の響きや繰り返しの面白さを感じさせ、音読発表に意欲を持たせる。2年生の昔話の読み聞かせを聞いて、単元の目的意識を持たせる。

第二次では、「うんとこしょ。どっこいしょ。」「○が△をひっぱって」が何度も繰り返されている面白さや登場人物が増える面白さを、場面ごとに文章を比較したり音読や動作化をしたりすることで感じさせる。学習意欲を持ち続けさせるために、ペープサートを取り入れ、繰り返しの部分の表現が微妙に変化する面白さを声に出して楽しませる。活動を通して、自分のお気に入りの文や文章を探ることができるようにする。

第三次では、自分が薦める本を選ばせ、友達と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、よりよいものになるように音読の練習をさせる。

単元の目標

- 文の中における主語と述語の関係に注意することができる。 【知識及び技能(1)カ主語と述語の関係】
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、音読することができる。 【知識及び技能(1)ク音読、朗読】
- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 【知識及び技能(3)エ読書】
- 場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えることができる。 【読むことイ】
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 【読むことエ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、読み聞かせをしたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

繰り返しのあるお話を何度も声に出して工夫して読み、読み聞かせを発表する。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

【読む】

- 登場人物
- 題名
- あらすじ
- 場面
- 繰り返し
- 音読
- 読み聞かせ

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能 (◎表現力(コミュニケーション力))	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力, 人間性 (☆主体性・積極性)	
◎相手に応じて, 順序立てて, 語のまとまりや言葉の響きなど姿勢や声の大小に気を付けて, 最後まではっきりと音読している。 読書に親しみ, いろいろな本があることを知ろうとしている。 主語と述語の関係に注意して読んでいる。	★繰り返しの言葉や文章のリズムに着目して, 場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体をとらえている。(構造と内容の把握) ★場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像しながら音読している。 (精査・解釈)	☆目的や相手意識をもって, 文章を読んだり, 読み聞かせをしたりしている。	【論理的思考力】 ・登場人物の順序や場面の变化に気付いて工夫して音読している。 【表現力(コミュニケーション力)】 ・相手に応じて, 音読(読み聞かせ)をしたり聞いたりしている。 【主体性・積極性】 ・読者を意識して進んで音読を工夫しようとしている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

<p>①時…</p> <p>②場所…はたけ</p> <p>③登場人物…おじいさん, おばあさん, まご, いぬ, ねこ, ねずみ</p> <p>④中心人物…</p> <p>⑤対人物…</p> <p>⑥出来事…おじいさんがかぶの種を撒いた。大きくなったかぶをおじいさんが抜こうとしたが, 一人では抜けないのでおばあさんと呼んだ。それでも抜けず, 孫, 犬, 猫, ねずみの順に次々と呼んできて引っ張った。</p> <p>⑦結末…6人が集まって, 6回目にやっと抜けた。</p> <p>⑧物語を一文で表す…大きくなったかぶを協力して引っ張って抜くという話。</p> <p>⑨語句の意味…「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」「とうとう」ぬけました等</p> <p>⑩表現の工夫…登場人物が大きく強いものから順に一人ずつ増える, 変化を伴って反復等</p>
--

(2) 物語の「ナゾ」の設定, 解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- おじいさんが引っ張ってもぬけない大きなかぶになったわけは?
- おじいさんはかぶをぬくためにどうしたか
 - ・だんだん小さい動物をよんできたのはなぜか?
 - ・猫とねずみは仲が悪いのになぜ呼んだのか?
 - ・ねずみが手伝ったらなぜ抜けたのか?
- さいごにかぶがぬけたときどんなことをいったか

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

上学年の2学年児童は「きいてたのしもう」で「因幡の白うさぎ」を聞いた後, 家族に読み聞かせをしている。昨年度, 同時期に「大きなかぶ」を学習している。そこで, 2学年児童が1学年児童に読み聞かせをして音読のポイント等について教える学習活動を設定し, 対話を促す。上学年から教えてもらうことで, 自分たちの学習に対して主体的, 積極的に取り組む姿勢を作ることができる。また, 選んだ本の読み聞かせを互いに聞き合う活動を仕組むことで, 対話を促すことができる。目的や相手を意識した, 読み聞かせになっているかを考えさせる。

(2) 学校図書館司書の指導

学校図書館司書から児童に指導していただくことで, 音読の仕方についての専門的な知見を児童に与える。それを通して, 自分たちの知識や技能, 考えを広げ, 深めさせていく。大人との対話を入れることで, 自分の読みについて再考する機会を与えることができる。と考える。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができる。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

読書で読んだ本について読書の記録をとらせることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

読み聞かせをした後、読み聞かせの感想を児童に伝えてもらうことで、自分たちの活動の振り返りをさせる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全8時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 「おおきなかぶ」に関心を持ち、学習課題「ほんはともだち～読み聞かせをしよう」を設定し、学習計画を立てる。教材文を読み、物語の大体をつかむ。			○	物語の大体を捉え、学習課題から学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。(ノート、発言)
	2	情報の収集 整理・分析 「おおきなかぶ」を読み、「おじいさんが種をまく様子を想像し、ナゾを整理する。	○			本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。(ノート)
	3	情報の収集 整理・分析 ナゾ①「おおきなおおきなかぶになったのはなぜか」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、想像を広げて答えを見つけている。(ノート・発言)
二	4	情報の収集 整理・分析 (本時) ナゾ②「おじいさんはかぶをぬくためにどうしたか」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。(ノート・発言)
	5	情報の収集 整理・分析 (本時) ナゾ③「さいごにかぶがぬけたときどんなことをいったか」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して答えを見つけている。(発言・書き込み)
	6	まとめ・創造・表現 「おおきなかぶ」の読み聞かせをして、聴き合う。	◎		○	声の出し方や声の大きさ、表情を意識して、読み聞かせをしている。(態度・発言) これまでの学習をもとに相手を意識して、読み聞かせをしている。(発表・行動)
三	7	まとめ・創造・表現 自分が選んだ絵本の読み聞かせを行い、友達と聞き合いながらよりよいものにしていく。	○		◎	「おおきなかぶ」の学習で学んだことをいかして、読み聞かせをしている。(読み聞かせ) 声の出し方や声の大きさ、表情を意識して、読み聞かせをしている。(態度・発言)
	8	まとめ・創造・表現 実行 2年生に聞いてもらい、読み聞かせの発表のリハーサルをする	○		◎	目的や相手を意識して、本を読んで発表のリハーサルをしている。(態度・発言・ノートの感想) 声の出し方や声の大きさ、表情を意識して、読み聞かせをしている。(態度・発言)
実行・振り返り			読書朝会での読み聞かせ			

ほんはともだち～読み聞かせをしよう～

[スイミー（光村図書）]

第2学年 1名 指導者 那須芳子

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、表現力、主体性・積極性、

単元について

本単元は、学習指導要領 C 読むこと「イ場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えること」「エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を受けて設定したものである。

本教材は、仲間と体の様子が異なる主人公スイミーが仲間と協力して大きな魚を追い出し、楽しく海のくらしを続けていくというお話である。スイミーに共感し、知恵と力を集める小さな魚たちを応援し、困難を乗り越えて、知恵と勇気で自分の生き方に生かしているとするスイミーの姿に惹かれ、関心を持つことができる物語である。

児童の実態

本学級の児童は学年一人で、マイペースである。読書が好きで理解力があり、読書朝会での読み聞かせも楽しんで聞いている。初めての文を正しく読みあらすじを話すことができる。国語の標準学力テストは100点であるが、単元末テストは問題を早合点してミスをすることがある。

集中して根気よく取り組むことと、自分の思いや考えが明確になるように書くことをが課題である。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「読書朝会で読み聞かせしよう」と設定し、自分が薦める本を読み聞かせするという目的意識を持たせる。学校図書館司書と連携し、同じ作者レオ＝レオニのシリーズの絵本を学級文庫に用意しておき、自分のお気に入りの絵本を探ることができるようにする。

第一次では、一人学びをして自分の読みをもたせる。話の大体をつかみ、物語の「ナゾ（めあて）」を設定させ、解決していく中で読みを深め、音読を発表するという学習の見通しをもたせる。

第二次では、主人公の人物像をつかませ、叙述をもとに想像を広げさせ、登場人物の行動や場面の様子を捉えさせる。場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、「ナゾ」を解いていく。文章がスイミーの行動に着目し易く書かれてあり、行動を通して物語の展開を押さえていきやすい。ペープサートを取り入れ、台詞を考えながら、主人公の目を通して見る場面の様子も豊かに想像させたい。スイミーに共感し、スイミーの行動から、いつまでもくよくよしないこと、知恵と勇気を発揮すること、力を合わせることで困難を乗り越えられることに気付かせたい。

第三次では、の中から自分が薦める絵本を選ばせ、友達と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、よりよいものになるように工夫しながら読み聞かせの練習をさせる。

単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、音読することができる。 【知識及び技能(1)ク音読、朗読】
- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 【知識及び技能(3)エ読書】
- 場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えることができる。 【読むことイ】
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 【読むことエ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、読み聞かせをしたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性】

単元を通じた課題となる言語活動

レオ・レオニの作品（絵本）を何度も声に出して工夫して読み、読み聞かせを発表する。

単元でつける「ことばの力」（学習用語）

【読む】

- 登場人物
- 題名
- あらすじ
- 場面
- 繰り返し
- 音読
- 読み聞かせ
- 体言止め
- 比喩（～のような 等）
- 強調

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能 (◎表現力(コミュニケーション力))	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力, 人間性 (☆主体性・積極性)	
◎相手に応じて, 順序立てて, 語のまとまりや言葉の響きなど姿勢や声の大小に気を付けて, 最後まではっきりと音読している。 読書に親しみ, いろいろな本があることを知ろうとしている。	★場面の様子や, 登場人物の行動など, 内容の大体をとらえながら読んでいる。 (構造と内容の把握) ★場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像ながら音読している。(精査・解釈)	☆目的や相手意識をもって, 文章を読んだり, 読み聞かせをしたりしている。	【論理的思考力】 ・登場人物の順序や場面の変化に気付いて工夫して音読している。 【表現力(コミュニケーション力)】 ・相手に応じて, 音読(読み聞かせ)をしたり聞いたりしている。 【主体性・積極性】 ・読者を意識して進んで音読を工夫しようとしている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

<p>①時…</p> <p>②場所…広い海</p> <p>③登場人物…スイミー, 小さな魚のきょうだいたち, まぐろ, スイミーのとそっくりの赤い魚たち, くらげ, いせえび, うなぎ等</p> <p>④中心人物…スイミー</p> <p>⑤対人物…まぐろ 大きな魚</p> <p>⑥出来事…まぐろに兄弟たちを奪われたが, 元気を取り戻したスイミーが仲間と協力して大きな魚を追い出し, 楽しく海のくらしを続けていくという話</p> <p>⑦結末…スイミーが仲間と協力して大きな魚を追い出した</p> <p>⑧物語を一文で表す…小さな魚たちが協力して大きな魚を追い出すという話</p> <p>⑨語句の意味…「ミサイルみたいに」「～みたいに」「けっして」「もちば」など</p> <p>⑩表現の工夫…比喻表現を使っている</p>
--

(2) 物語の「ナゾ」の設定, 解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- なぜスイミーはひとりぼっちになったのか
- なぜスイミーは元気を取りもどしたのか
- なぜスイミーは大きな魚のふりをして泳ごとさげんだのか
- 1匹の大きな魚みたいに泳げるようにスイミーたちがどんなことをしたのか

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

「きいてたのしもう」で「因幡の白うさぎ」を聞いた後, 家族に読み聞かせをしている。昨年度, 同時期に「大きなかぶ」を学習している。そこで, 2学年児童が1学年児童に読み聞かせをして音読のポイント等について教える学習活動を設定し, 対話を促す。下学年に教えることで, 自分の学習に対して主体的, 積極的に取り組む姿勢を作ることができる考える。また, 選んだ本の読み聞かせを互いに聞き合う活動を仕組むことで, 対話を促すことができる。目的や相手を意識した, 読み聞かせになっているかを考えさせる。

(2) 学校図書館司書の指導

学校図書館司書から児童に指導していただくことで, 音読の仕方についての専門的な知見を児童に与える。それを通して, 自分たちの知識や技能, 考えを広げ, 深めさせていく。大人との対話を入れることで, 自分の読みについて再考する機会を与えることができる考える。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると考える。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

読書で読んだ本について読書の記録をとらせることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

読み聞かせをした後、読み聞かせの感想を児童に伝えてもらうことで、自分たちの活動の振り返りをさせる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全8時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 「スイミー」に関心を持ち、学習課題「ほんはともだち～読み聞かせをしよう」を設定し、の見通しを持つ。教材文を読み、物語の大体をつかむ。			○	物語の大体を捉え、学習課題から学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。 (ノート、発言)
	2	情報の収集 整理・分析 「スイミー」が楽しく暮らしている様子を想像し、ナゾを整理する。	○			本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート)
	3	情報の収集 整理・分析 ナゾ①「なぜスイミーはひとりぼっちになったのか」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、想像を広げて答えを見つけている。 (ノート・発言)
二	4	情報の収集 整理・分析 ナゾ②「なぜスイミーは元気をとりもどしたのか」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	5	情報の収集 整理・分析 (本時) ナゾ③「なぜスイミーは大きな魚のふりをして泳ごうとさげんだのか」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して答えを見つけている。 (発言・書き込み)
	6	情報の収集 整理・分析 ナゾ④「1匹の大きな魚みたいに泳げるようにスイミーたちがどんなことをしたのか」について考え、解決する。		○		これまでの学習をもとに相手を意識して、読み聞かせをしている。 (発表・行動)
三	7	まとめ・創造・表現 自分が選んだ絵本の読み聞かせを行い、友達と聞き合いながらよりよいものにしていく。	○		◎	「スイミー」の学習で学んだことをいかして、読み聞かせをしている。 (読み聞かせ) 声の出し方や声の大きさ、表情を意識して、読み聞かせをしている。 (態度・発言)
	8	まとめ・創造・表現 実行 1年生と聴き合い、読み聞かせの発表のリハーサルをする	○		◎	目的や相手を意識して、本を読んで発表のリハーサルをしている。 (態度・発言・ノートの感想) 声の出し方や声の大きさ、表情を意識して、読み聞かせをしている。 (態度・発言)
実行・振り返り			読書朝会での読み聞かせ			

本時の学習

【1学年 本時の目標】

○最後にかぶが抜けたときの様子を想像することを通して、登場人物の行動を考えながら工夫して音読することができる。

【準備物】

掲示用の文や登場人物の絵、ペープサート（児童）

【2学年 本時の目標】

○「大きな魚のふりをして泳ごう。」と叫んだときの様子を想像することを通して、スイミーや赤い魚たちの行動を考えながら工夫して音読することができる。

【準備物】

掲示用の文や登場人物の絵、ペープサート（児童）

○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】	指導上の留意点	学習活動		学習活動	指導上の留意点	○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】
<p>○読む（論理的思考力） 最後にかぶが抜けたとき、おじいさんたち登場人物がどんな行動をしたのか想像を広げて読み取っている。（発言・書き込み）</p> <p>★表現力 最後にかぶが抜けて喜んでいる登場人物の行動を想像しながら工夫して音読をしている。</p> <p>★主体性・積極性 かぶが抜けたときの登場人物の様子を想像を広げながら進んで読み取ろうとしている。</p>	<p>・登場人物の気持ちが表れる台詞を考えることを知らせる。</p> <p>【物語のナゾ】さいごにかぶがぬけたとき、おじいさんはどんなことをいったのかな。</p> <p>・全文を読んで、場面の様子や1人ずつ増えていく登場人物の順番や行動について想起させる。</p> <p>・想像を広げながら繰り返される行動やかけ声等を工夫して音読する。</p> <p>・誰が誰を呼んできたか、どのようにして引っ張ったか、どんなかけ声をかけたかなど、かぶが抜ける場面の様子をペープサートや動作化させながらしっかり想像させる。</p> <p>・想像した言葉を吹き出しに書かせる。</p> <p>・最後にかぶが抜けて喜んでいいる登場人物の行動を想像しながら音読させる。</p> <p>・おじいさんたち登場人物の様子を想像しながら読み聞かせをさせる。</p> <p>・聞いた感想を伝えさせる。</p>	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>2 本文を音読する。</p> <p>3 八場面のかぶを抜く様子を考えながら、かぶが抜けたときのおじいさん達の台詞を考える。</p> <p>4 「おおきなかぶ」の八・九場面を音読する。</p> <p>5 読み聞かせの交流をする。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>		<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>2 本文を音読する。</p> <p>3 場面の様子を確認し、登場人物の行動を想像しながら工夫して音読する。 「出てこいよ。みんなで遊ぼう。」 おもしろいものがいっぱいだよ。 「だめだよ。大きな魚にたべられてしまうよ。」 「だけど、いつまでもそこにじっとしているわけにはいかないよ。なんとかかんがえなくちゃ。」</p> <p>4 「スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」の台詞を考える。 ・ひとりになりたくない。 ・このままじゃいけない。 ・何とか考えなくちゃ。 ・どうしたら、大きな魚をやっつけられるかな。</p> <p>5 なぜ、スイミーは「そうだ。みんないっしょにおよぐんだ。海でいちばん大きな魚のふりをして。」との叫んだのか、自分の考えを書き込み、音読の練習をする。</p> <p>6 読み聞かせの交流をする。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>・前時までの学習内容を想起させる。</p> <p>・いつ、どこ、だれ、何をしたか、確かめさせる。</p> <p>・文をもとにして、スイミーと赤い魚たちの位置関係を視覚化して確認させる。</p> <p>・ペープサートを使って登場人物の行動や発言を考えさせる。</p> <p>・考えた読み方を書き込ませる。</p> <p>・本文の叙述をもとにして、スイミーの言葉を考えさせる。</p> <p>・赤い魚たちにスイミーが教えた言葉から大きな魚になるためのスイミーの考えに気付かせる。</p> <p>・スイミー達の様子を想像しながら読み聞かせをさせる。</p> <p>・よりよい音読になるように気付きを伝えさせる。</p>	<p>○読む（論理的思考力） 大きな魚のふりをしたとき、スイミーや赤い魚たちがどんな行動をしたのか想像を広げて読み取っている。（発言・ノート）</p> <p>★表現力 相手に応じて、順序立てて、語のまとまりや言葉の響きなど姿勢や声の大きさに気を付けて、最後まではっきりと音読している。大事なことを落とさないように興味を持って聞いている。</p> <p>★主体性・積極性 想像を広げて、スイミーの行動を進んで読み取って音読している。</p>